

職業能力評価基準(マテリアル・ハンドリング業)レベル区分の考え

レベル区分	レベル区分の目安	役職イメージ
レベル 4	【技術マネジャー(部門管理者)】 大規模もしくは業績影響度が大きい組織の責任者、または現場を統括する責任者として、広範囲かつ統合的な判断及び意思決定を行い、企業利益を先導・創造する業務を遂行するために必要な能力水準。	「部長」
	【技術マネジャー】 極めて高度な技術を有し、職務横断的に製品や設備の品質や生産性向上に貢献する能力水準。	「技師長」
レベル 3	【高度技術スタッフ(チームマネジャー)】 中小規模常程度の組織の責任者として、上位方針を踏まえて、各職務において管理運営、計画作成、業務遂行、問題解決等を行い、企業利益を創出する業務を遂行するために必要な能力水準。	「課長」 「工事責任者」
	【高度技術スタッフ】 高度な技術を有し、製品や設備の品質や生産性向上に貢献するとともに、組織のマネジャーとしても、上位方針を踏まえて、各職務において管理運営、計画作成、業務遂行、問題解決等を行い、企業利益を創出する業務を遂行するために必要な能力水準。	「技術スペシャリスト」
レベル 2	グループやチームの実務リーダー又は中心メンバーとして、創意工夫を凝らして自主的な判断、改善、提案を行いながら業務を遂行するために必要な能力水準。	「シニア技術スタッフ」
レベル 1	上司の指示・助言を踏まえて担当業務を確実に遂行するために必要な能力水準。	「技術スタッフ」

マテリアル・ハンドリング業におけるキャリア形成の例

